

主な出来事

【内政】

- 16日から24日にかけて、ダカール市内をはじめ各地で仏シャルリー・エブド紙掲載の風刺画に抗議するためのデモ、集会等が開催された。
- 30日から31日にかけて、野党連合「共和国防衛愛国前線(FPDR)」は、ダカール治安当局から許可が得られていないにも関わらず市内オベリスク広場で集会を開催し、複数の逮捕者が出たほか、治安部隊が参加者に対して催涙弾を使用するなどの措置をとった。

【外政】

- 11日、サル大統領は、パリで開催された仏週刊紙シャルリー・エブド編集部襲撃事件に抗議するデモ行進に参加した。
- 26日、政府はエボラ出血熱の流行に伴い昨年8月から閉鎖されていたギニア国境を再開した。
- 29日、サル大統領は NEPAD 国家代表間運営委員長に再選(任期2年)された。

【経済】

- 仏IT企業アトス社のブルトン会長兼CEOは、ジャムニャジョ工業団地に同社のIT産業拠点を設置し、3年以内に1,000人を雇用する考えを明らかにした。
- 24日、Transair社によるダカール・タンバクンダ間航空便が就航した。

【内政】

1 仏シャルリー・エブド紙掲載の風刺画に対する反応

(1)政府による対応

- 13日、ジャロ内相は、14日版仏シャルリー・エブド紙及び同紙掲載の風刺画が転載されている同日版仏リベラシオン紙のセネガルにおける配布を禁止する旨発表した(14日APS)(往電第77号)。
- 15日、与党「共和国同盟(APR)」はコミュニケを発出し、サル大統領が11日にパリを訪問し、シャルリー・エブド紙本社に対する襲撃に抗議するデモ行進に参加したことに関し、同訪問の目的は同紙を擁護するためではなく、テロ行為に対するセネガルの強い非難を表明するためであった旨述べた(15日APRコミュニケ)(往電第77号)。

(2)市民らによる抗議デモ等

- 16日午後の金曜礼拝の後、数百人のイスラム教徒がダカール市内大モスクから同オベリスク広場、仏大使館にかけてシャルリー・エブド紙掲載の風刺画に抗議するためのデモを実施した。最終地点の仏大使館においては一部の参加者が敷地内に侵入し、治安部隊が催涙弾を使用する事態となった。また、同日にはダカール郊外ピキン市等、複数のコミュニティにおいても同様のデモが行われた(17・18日Temoin)(往電第77号)。
- 18日、リュフィスク市でシャルリー・エブド紙掲載の風刺画に抗議するためのデモ行進が実施され、仏国旗

が燃やされた(19日 Observateur)(往電第77号)。

- 23日午後、ダカール市内大モスクにおいて、金曜礼拝に続きシャルリー・エブド紙掲載の風刺画に抗議するための集会が開催され、数百人から約千人が参加した(24・25日 Sud Quotidien)(往電第100号)。
- 24日午後、ダカール市内オベリスク広場でシャルリー・エブド紙掲載の風刺画に抗議するための集会が開催され、数千人が参加した。また、政府代表としてジョヌ首相及びティン国防相ら、野党セネガル民主党(PDS)代表としてウマル・サール同党ナショナル・コーディネーターらが参加した(24日 Seneweb)(往電第100号)。

(3) 宗教界の反応

- サール・ダカール枢機卿は、他者の信仰や信条は尊重すべきであり、ある宗教の開祖を風刺することでその信徒を傷つける行為は避けるべきである旨述べた(16日 Senenews)(往電第77号)。
- 16日、スリニュー・シディ・モクタル・ンバケ・ムリッド教団総カリフは、トゥーバにおいてシャルリー・エブド紙に抗議するためのデモを行うことを信徒に呼びかけるとともに、「シャルリー・エブド紙に対するテロ行為を支持する」、またサル大統領を含むパリでの行進への参加者につき「彼らは恥の行進に加わった」と代理人を通じて述べた(16日 Mourides.info)(往電第77号)。
- 22日、ダカール定例司教会議の閉会式において、セネガル各地から集まった司教らは、シャルリー・エブド紙掲載の風刺画は「他者の信仰及び宗教的信条を傷つけるものである」と強く非難する旨の声明を採択した(23日 Soleil)。

2 前政権の不正追及

- 15日、カリム・ワッド元大臣は、自らに対する裁判の不当性について抗議するためのハンガーストライキを開始した(16日 Soleil)。
- 18日、スリニュー・シディ・モクタル・ンバケ・ムリッド教団総カリフは、長男を代理人としてカリム・ワッド元大臣の元に派遣し、ハンガーストライキを中止するよう命じた。これを受けて同元大臣はハンガーストライキを中止した(19日 Populaire)。
- 20日の公判において、カリム・ワッド元大臣弁護団及び支持者は、同元大臣に対して公正な裁判が行われていないとして審判への出席を中断し、退席した(20日 Soleil)(当館注:同元大臣本人は18日のハンガーストライキ開始以来出廷していない)。

3 野党陣営によるデモ等

- 21日、野党 PDS 若手党員を含む野党連合「共和国防衛愛国前線(FPDR)」メンバーらが法務省前で集会及び座り込みを行おうとしたところ、治安部隊に阻止され、トゥサン・マンガ PDS 青年部長を含む4名が逮捕

された(21 日 Observateur)。

- 28 日, FPDR はオベリスク広場において政治集会を開催する旨発表していたが, ダカール治安当局から集会の許可が得られなかったため中止した(29 日 Seneweb)。
- 30 日, FPDR は当局から許可が得られていないにも関わらずオベリスク広場で集会を強行したところ, 治安部隊が介入し, 参加者に対して催涙弾が使用された。また, サール PDS ナショナル・コーディネイター, エラジ・アマドゥ・サル同党員及び報道関係者 1 名が逮捕された(30 日 Observateur)。
- 31 日 16 時頃, FPDR は当局から許可が得られていないにも関わらずオベリスク広場で集会を開催しようとしたところ, 治安部隊はファルバ・サンゴール PDS 宣伝担当, ママドゥ・ジョップ・ドゥクロワ FPDR コーディネイターら 4 名を逮捕した(2 日 Observateur)。
- 31 日 18 時頃, ワッド前大統領を乗せた車両が治安部隊の設置したバリケードを突破してオベリスク広場に到達した。これを見て駆けつけた支持者らに対し, 治安部隊は催涙弾を使用した(2 日 Observateur)。
- 31 日夜, ワッド前大統領は自宅で記者会見を開き, 2 月 4 日に再度オベリスク広場で集会を開催する旨宣言した(2 日 Observateur)。

4 与党「進歩のための同盟(AFP)」の動き

- 21 日, ムスタファ・ニヤス国民議会議長(与党 AFP 党首)は, マリク・ゲイ同議長付技術顧問を解任した(21 日 Observateur)(当館注:ゲイ技術顧問は同党青年運動部長で, 今般, 同技術顧問をはじめ若手党員の一部は, 2017 年大統領選挙に際し同党から独自の候補を擁立せず, サル大統領の支持に回るというニヤス党首の方針に反対していた)。
- 22 日, 与党 AFP の幹部会合が開催され(トゥーレ前首相ら与党 APR 代表も出席), 出席したニヤス党首は, 2017 年大統領選挙の際に自党員から立候補者が出た場合も支持しない考えを明らかにした(23 日 Soleil)。

5 その他

- 18 日, セネガル市長会(AMS)会長選挙が行われ, 全 512 票中 463 票を獲得したアリユー・サル・ゲジャワイ市長(サル大統領実弟)が当選した(19 日 Populaire)。

【外政】

1 サル大統領の外遊

- 11 日, サル大統領は, パリで開催された仏週刊紙シャルリー・エブド編集部襲撃事件に抗議するデモ行進に参加した(13 日 Seneweb)(往電第 77 号)。

- 12日から15日にかけて、サル大統領はアルジェリアを訪問した。12日、同大統領はシィ APIX(投資・大規模工事促進公社)総裁とともに、600名の現地企業関係者に対し、セネガルにおける投資機会につき紹介した。13日、サル大統領はブーテフリカ大統領と会談を行い、マリ及びリビアを含むアフリカにおける紛争等について協議した。セネガル大統領によるアルジェリア訪問は32年ぶり(14日 APS)。
- 15日、ワガドゥグを訪問中のサル大統領は、ブルキナファソ情勢にかかる ECOWAS コンタクト・グループ議長としてカファンド暫定大統領、ジダ首相らと会談を行った(16日 APS)。
- 19日、サル大統領は、コトヌー(ベナン)で開催された第18回 UEMOA 首脳会合に出席した。同日、同大統領は、ヤイ・ボニ・ベナン大統領と会談を行った(20日 Soleil)。
- 23日、サウジアラビアを訪問中のサル大統領は、アブドラ前国王の葬儀に出席した(26日 Soleil)。
- 28日、サウジアラビアを訪問中のサル大統領は、メッカ巡礼を行った(29日 Soleil)。
- 29日、サル大統領はアジスアベバで開催された NEPAD 国家代表間運営委員会(HSGOC)に出席し、同委員長に再選(任期2年)された(2日 Soleil)(往電第141号)。

2 ギニア国境の再開

- 20日、コルダ州エリンキンにおいてセネガル・ギニア間国境の再開にかかる実務者会合が開催され、出席したコンデ・ギニア内相は、同国境は3週間以内に再開される旨発表した(20日 APS)。
- 26日、ジャロ内相はコミュニケを発出し、セネガル・ギニア間の陸路の国境を同日午前0時に再開した旨発表した。両国間における海路及び空路での国境閉鎖は昨年11月に解除されていたところ、今回の措置をもって国境は完全に再開されたこととなる(27日 Soleil)(往電第107号)。

3 その他

- 13日深夜から14日未明にかけて、12月30日未明に発生した武装集団によるガンビア大統領府襲撃の首謀者である旨宣言していた反政府運動家シェーク・シジャ・バヨ氏は、滞在先のセネガルからフランスに国外追放された(14日 APS)。
- 19日、ジャロ内相及びダカールを訪問中のディアス・スペイン内相は、テロ及び組織犯罪対策にかかる二国間協力にかかる覚書に署名を行った(20日 APS)。
- セック・エネルギー・再生可能エネルギー開発大臣はアブダビ(アラブ首長国連邦)を訪問し、2015年度「アブダビ持続可能性週間」に出席した(22日 APS)。
- 29日から31日にかけて、ラガルド IMF 専務理事はセネガルを訪問した。29日、同専務理事はサル大統領

と会談を行い、その後の記者会見において、IMF はセネガル新興計画(PSE)の実施及び必要な制度改革においてセネガルを支援する旨述べた(30日 Soleil)(往電第161号)。

- 29日、ソウ統合参謀総長は国連コートジボワール活動(UNOCI)に派遣される650名の部隊(うち14名が女性)に対する軍旗授与式に出席した(30日 Observateur)。
- 30日、本年のドレスデン平和賞を受賞したサル大統領は、ドレスデンにおいて授賞式に出席した。アフリカの首脳が同賞を受賞するのは初めて(2日 Soleil)。

【経済】

1 セネガル新興計画(PSE)関連

- 10日、サル大統領は、スリニュー・シディ・モクタール・ンバケ・ムリッド教団総カリフらとともに、チェス・トゥーバ間高速道路(通称「ILAA TOUBA」)建設工事の着工式に出席した(10日 Seneweb)。
- 21日、サル大統領はジャムニャジヨにおいてダカール第2大学(UNIDAK2)建設工事の着工式に出席した。同大学は2016年10月に開学し、化学、工学、経済学、経営学、社会科学等の分野で約3万人の学生を受け入れる予定(21日、22日 Soleil)。
- サル大統領によると、PSE実施のための資金の現時点での動員率は、当初の予定であった19~20%を上回る26%(30日 Observateur)。

2 その他

- 仏IT企業アトス社のブルトン会長兼CEOは、ジャムニャジヨ工業団地に同社のIT産業拠点を設置し、3年以内に1000人を雇用する考えを明らかにした。また、同会長兼CEOは、セネガルをサブサハラアフリカ進出の足がかりとし、また、同国をインドのような情報サービスの輸出大国としたい旨述べた(23日 Soleil)。
- セネガル、モーリタニア及びニジェールの3か国は、AUの特別機関であるAfrican Risk Capacity(ARC)の関連機関である保険会社ARC Limitedより、干魃の被害に対する補償金として2,500万ドルを受領する(22日 APS)。
- 24日、Transair社によるダカール・タンバクンダ間航空便が就航した。同便は今後、毎週土曜日の午前中にダカール・タンバクンダ間を往復する(24・25日 Soleil)。

(了)